

令和5年度秋田県生涯学習センター第1回運営委員会 記録

期日：令和5年7月5日（水）

時間：13：30～15：00

会場：生涯学習センター視聴覚室

1 開会

2 所長あいさつ

当センターの状況だが、利用実績データを見ると、一昨年の2021年度の利用者数は50,538人で、昨年度2022年度は60,464人となり、9,926人増えている。増えた理由としては、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されたことと、それに加えて秋田市文化会館が閉館したことにより、そちらの利用をされていた方々が当センターを利用して下さるようになったことが考えられる。今年度も、より多くの方に利用していただき、当センターが一層活性化することを期待している。

センター主催の事業や、団体から講師を依頼される講座等については、順調に執り行われている。あきたスマートカレッジについては、5月20日（土）に当センターのシニアコーディネーターの第1回を皮切りに、これまで6回の講座を開催してきた。講師の都合で延期されている講座が1つあるが、それ以外の講座は順調に行われている。

当センターでは、各種講座、研修等を通じて学びと活動の橋渡しに取り組み、持続可能な地域づくりの実現を目指している。委員の皆様より忌憚ないご意見やご助言をいただき、より活性化したセンター運営を目指していきたい。

3 出席者紹介及び資料確認

4 委員長・副委員長あいさつ

委員長

今の教育現場の大変さや学校教育の難しさを実感させられている。今日は学ばせていただければと思っている。

副委員長

社会のなかなか難しい流れの中で、大谷翔平から元気をもらって、そして栗山監督の人を生かすという言葉を大切にしていきたいと思っている。今日はこの会議でそういったところも皆さんから学びながら、今後役に立てていければいいかなと思っている。

5 案件

(1) 前年度の事業報告と今年度の主な事業計画について

①学習事業班長

スライドを使いながら、令和4年度事業実績、令和5年度事業計画について説明
※秋田県生涯学習センターホームページ「2023事業計画・2022事業実績」参照

②各担当から

・障害者の生涯学習に関する調査研究

今年度も市町村や特別支援学校、民間企業等と連携・協働し、障害の有無に関わらず共に学ぶことができる学習機会の創出を検討していく。現在予定されているのは、特別支援学校との連携である。特別支援学校の卒業生を対象とした青年学級では、センター職員とのオンラインでの交流や音楽教室の開催、ボッチャ大会などを企画している。また、民間企業とはボッチャ大会やeスポーツを活用した取組などが予定されている。また、市町村との連携では、「オーダーメイド型社会教育主事派遣～障害者の生涯学習支援モデル事業～」において、3つの市町からエントリーいただいております、センターが取り組んできた実践を市町へ波及させることができると同時に、今までとは違う様々な年齢層へのアプローチができ、調査研究の広がりにも期待している。

・家庭教育支援指導者等研修

この研修は、各市町村の中で家庭教育支援を行っている方々や、これから家庭教育支援に携わろうとしている方々を対象にしている。支援の実際や支援をする際のしくみづくりなどについての専門的知識をもって家庭教育支援を推進していくことを主眼とした研修である。

・オーダーメイド型社会教育主事派遣

学校・家庭・地域の連携・協働に関するオーダーメイド型社会教育主事派遣事業について、昨年度は6市町と1特別支援学校がエントリーし、今年度は4市町と1特別支援学校がエントリーしており、そのうちの3市町についてはすでに初回の打合せを終えている。それぞれの依頼元では、これまでの課題の解決に向けた取組をさらに一歩進める事業が計画されており、当センターとして引き続き支援、協働していきたいと考えている。

・団体支援

今年度は9つの生涯学習団体と2つのボランティア団体を支援している。各団体が、将来的にセンターの支援がなくても自主的な学習や独立した運営ができるように、今年度も支援をしていく。

・あきたスマートカレッジ

無料講座では地域づくり分野や現代的取り組み分野として19コマ、有料講座は教養分野として11コマ準備している。地域づくり分野の中では、受講者自らも地域づくりに取り組んでいくきっかけになる講座を用意している。他にファシリテーション技術を一般の県民の方が身に付けることができる熟議ファシリテーター講座、障害の有無に関わらずどなたでも体験を通じて学んでいただく

講座、災害時の状況や課題を知らながら、防災意識を高めていく防災講座も準備している。有料講座の教養分野についても、東大史料編纂所協力講座を講師のリモートによるオンライン講座として実施する。また、特別企画講座では、より幅広い年齢層の方に受講していただけるように児童文学に焦点を当てた講座を企画している。

申し込み方法について、今年度から電話での受付を終了した。郵送、メール、電子申請、対面など、記録に残るような方法で受付を行っている。電子申請による申し込みも徐々に増えてきている。

・展示スペース

昨年度は11件の利用があり、観覧者は年間で19,000名に上った。今年度は7件の利用が予定されている。また、今月の展示ではミニ体験会が計画されるなど、新型コロナウイルス感染症が一段落したことにより、今後も様々な要望が出されることも予想される。4月からは、令和6年度の申し込み受付を始めていて、すでに1件の申し込みがある。今後も観覧者・展示者双方の学習に対する関心や意欲が高まるよう、展示スペースの運営を心がけていきたい。

・総務

令和5年度要覧に記載のとおり、令和4年度の施設利用状況は、最も利用者数の多かった令和元年度の利用者の半分にも満たない数ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響が出始めた令和2年度の48,872人の利用と比較すると2割程度の増加がみられ、今後も利用の回復が見込まれる。換気や適切な距離を確保することが感染症予防に効果的であるとの政府資料もあるため、机1台につき椅子2脚を常設とし、利用者が必要に応じて各室内に置いている机椅子を定員の範囲内で設置して使用するという方式をとっている。利用に不安を感じている方もいると思われることから、引き続き検温器や手指消毒薬の設置、消毒セットの貸し出しや換気用扇風機の設置などを継続していく。

山王大通り側からセンターの正面玄関に入るための歩道に反射板付きコーンを設置している。また正面駐車スペースに車椅子利用者専用駐車スペースの他に歩行困難者用駐車スペースを設けるなど、多様な利用者の安全と利便性の向上に対応できるように、センター周辺環境の整備に取り組んでいるところである。

(2) その他（質疑応答）

- ・委員長：義務教育課で事務長研修会が行われたが、今までに義務教育課と連携したことはあるのか。コミュニティ・スクールについて伝える上での影響はあるのか。

→義務教育課と関わることは少ないが、義務教育課の政策を考える場にファシリテーターとして呼ばれたことがある。今年度、学校事務の方々を対象とした研修会でファシリテーター研修の依頼があった。また、事務長もコミュニティ・スクールに関わることがある。

- ・B委員：まなびサポート秋田について伺いたい。私もデータを届けさせてもらっ

ているが、やはりリニューアルできないのか。

→予算の関係もあり、リニューアルができていない。

- ・ B委員：スマートカレッジの電話での申し込みをやめたようだが、利用者の方から要望等はあったか。
→特になかった。受講申込が受理されているのかの確認の電話はあった。
電子申請は昨年度よりも増えている。初めて利用される方は電子申請が便利ではないかと感じている。高齢の方は、郵送の方が多い。
- ・ A委員：貸館については電子申請できるのか。
→現段階では行っていない。メールでの受付は行っている。県としても徐々に電子化を進めていく方向である。
- ・ A委員：学校運営協議会において、熟議→会議→熟議の流れで行っているところはあるのか。
→そういう事例はたくさんある。また、他県から熟議の研修を受けにきたケースもある。
- ・ C委員：「アルクベ！イウベ！キクベ！」の参加者はどのように決定したのか。
→昨年度当センターが主催で行ったときには、センターで一般の方々に参加を呼びかけた。今年度は、ある市町村の民生児童委員協議会から依頼を受け、民生委員、児童委員、社会福祉協議会、小学生がコラボレーションして行った。生涯学習センターが介することで「つながり」を生むことができた。
- ・ C委員：幼い頃から障害者に接しながら育つことが必要なのではないかと考える。
義務教育の中で取り組めるようなシステムがあればいいと思う。
- ・ C委員：障害者理解において、県外や海外で先進的な取組はあるか。
→海外では福祉が充実しているが、そのまま取り入れることはできない。
私たちは今あるものを生かして取組を進めていきたいと思う。
- ・ C委員：eスポーツに関してはノウハウをもっている企業がある。そういった企業を巻き込んで実施してはどうか。
→様々な企業と連携しながら取り組んでいきたい。
- ・ A委員：秋田県生涯学習センター型熟議をわかりやすくまとめて、他でもできるようにしてほしい。また、ファシリテートできる後継者も育ててほしい。
地域づくりとも結びつけてほしい。
- ・ 副委員長：各市町村からの講師依頼が増加している。これはここセンターでの他団体との研修会でのつながりの好結果の一例だと思う。出先での困りごとなどはないか。
→オンラインという選択肢もあるが、相手と直接会うことによって意思疎通がよりしっかりできると考えている。
- ・ A委員：スマートカレッジは土曜日開催だが、参加率が良いからか。
→講座数が多いときは、土曜日以外の開催もあった。こういった要望があるのか見極めて、検討していきたい。

- ・ A委員：以前は講座を夜に開催している時があった。そのようなニーズがあるのであれば検討してほしい。
- ・ 委員長：秋田の熟議型生涯学習の成果をわかりやすくまとめて、他でもできるようにしていただきたい。また、成果を地域づくりにも生かしてほしい。

6 所長あいさつ

貴重なご意見をいただきありがとうございます。現在の子どもたちは本物に触れることが少なくなっていると言われていて。車椅子に乗って本物を体験することで印象に残る。その体験をした子どもたちが周囲の子どもたちへ伝えることで、秋田の子どもたち全員が変わっていくのではないかと考えている。

ある県立高校では球技大会においてボッチャを行った。体力や筋力の差などに関係なくできるため、とても良かったと聞いている。別の県立高校にもボッチャを行うように勧めた。ボッチャを障害のない方々にも普及させていくことができれば、障害者に対する理解も進むのではないかと考えている。

7 閉会